

# 井路川 いじがわ

江戸時代以来、新田のいたるところで水利や運搬のため井路川という水路が掘られ、昭和30年頃までは豊かな農産物を積んだ小船が行き交っていました。この井路川は、新田の動脈でもありました象徴でもあって、近世大阪発展のため大きな役割を果たしてきました。(住之江区ホームページより)



## ■井路川ルート

大正14年の地図と現在の地図を重ね合わせ、井路川のルートを確認しました。  
(地図作製：中村英祐／資料：大阪市史編纂所)

## 井路川のルートについて

幹線水路、井路川は淀川を水源として鯉江川へ流れ込み、寝屋川を經由し旧淀川へ流れていました。

(仮称)内代井路川は、城東貨物線の交差点より斜め東側に北上し旭陽中学校を横切って江野と繋がっていました。

(仮称)大宮井路川は、旭公園の東側を南に流れ七曲がりの西側で合流していました。

なまずえがわ  
～鯉江川とは  
大阪市建設局「河籍簿」参照

鯉江川は北河内郡の一部ならびに旧榎並荘の排水を集め、東は今福五ヶ閘門より西は北区東野田に至り寝屋川に合流していました。不法投棄と水質の悪化に伴い、環境衛生上の面で放置できなくなったため、昭和47年(1972年)に埋め立てられ、跡地は道路として利用されています。



## 井路川・現在の様子

井路川があった場所の現在の様子を見ると、曲がりくねっていることが特徴としてあげられます。

また、井路川が水運として利用されていた当時は、井路川に面して家の玄関が設けられていたと思われませんが、その後排水路としての利用となり、環境悪化の問題などから、家屋の玄関は井路川に背を向けるようになったと考えられます。

井路川跡を歩いてみると、現在は道路となっている川跡に背を向けた家を所々に見ることができます。

城北川周辺では、行き止まりの道が多く見られます。現地を調べた結果、城北川に流れ込んでいた井路川が道路として埋め立てられ、行き止まりとなっているのではないかと推測しています。



■ 高瀬川の現在



■ (仮称)今市井路川の現在



■ (仮称)清水井路川の現在



■ 城北川につながる行き止まりの道



■ 井路川暗渠後の様子  
(現在の森小路2丁目付近／昭和30年頃)

(本頁の写真全て: 中村英祐)